

飯 監 第 9 号  
令和 5 年 8 月 2 9 日

飯南町長 塚原 隆昭 様

飯南町監査委員 那須 照男

飯南町監査委員 安部 丘

令和 4 年度飯南町一般会計、各特別会計歳入歳出決算及び  
各公営企業会計決算並びに基金運用状況の審査意見について

地方自治法第 2 3 3 条第 2 項及び地方公営企業法第 3 0 条第 2 項並びに地方自治法第 2 4 1 条第 5 項の規定により、審査に付された令和 4 年度飯南町一般会計、各特別会計歳入歳出決算書及び各公営企業会計決算書、その他政令で定める書類、並びに令和 4 年度基金運用状況について、飯南町監査基準及び監査事務運営要綱に準拠し審査した結果、次のとおり意見を付す。

1. 審査の概要について

(1) 審査の対象

- ・令和 4 年度飯南町一般会計及び各特別会計歳入歳出決算書及び関係諸帳簿、証書類
- ・令和 4 年度各公営企業会計決算書及び関係諸帳簿、証書類
- ・基金の運用状況に関する調書類

(2) 審査の期間

令和 5 年 7 月 2 7 日から令和 5 年 8 月 2 8 日まで

(3) 審査の手続き

町長から提出された令和 4 年度飯南町一般会計、各特別会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書並びに実質収支に関する調書等について審査した。

各公営企業会計については令和 4 年度決算報告書、損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書等について審査した。

基金の運用状況については運用状況に関する調書等を審査した。

審査に付された各会計の計数に誤りはないか、財産運用は健全か、財産管理は適切か、また予算執行については関係法令に従って効率的になされているか等に主眼をおき、それぞれの関係諸帳簿及び証拠書類との照合を行うとともに、現地確認を行う等の審査の手続きをした。

## 2. 審査の結果

一般会計、各特別会計、各公営企業会計のすべてにおいて計数に誤りはなく、関係諸帳簿及び証拠書類と符合しており適正であると認めた。

基金の運用状況に関する調書の計数についても、関係諸帳簿及び証拠書類と符合しており誤りのないものと認めた。

## 3. 審査意見

### 【一般会計、各特別会計】

令和4年度の普通会計決算額（一般会計）は、歳入総額8,561百万円、歳出総額8,304百万円、歳入歳出差引額257百万円、実質収支99百万円の黒字決算となっている。

歳入については、地方交付税、国県支出金、基金繰入金の合計が272百万円余の増額となったが、町債の発行額が527百万円の大幅な減額となったため、歳入総額は前年度に比し254百万円余の減額となっている。

歳出については、農林水産業費、教育費、公債費において増額となっているが、その他は大幅な減額となり、歳出総額は前年度に比し273百万円の減額となっている。

国民健康保険事業特別会計他2特別会計については実質収支額は黒字決算となっている。

公債費について令和4年度は町債の償還、繰上償還を合わせ1,350百万円余の償還を実施し、更に町債発行額を大幅に抑制したため、町債残高が前年度より641百万円余の減額となっている。

平成27年度から連続して増加していた町債残高が減少に転じ、その額が10,285百万円余となり、町が定めた目標値100億円以下に近づいている。

経常収支比率は前年度より4.2ポイント上昇しており、また単年度実質公債費比率は10.09%となり前年度より上昇したが、3カ年平均の実質公債費比率は前年度より0.1ポイント低下し9.3%となっている。

実質公債費比率の将来推計によると、今後上昇傾向が予測されており引き続き繰上償還を実施するとともに、町債発行の抑制が不可欠である。

徹底した経費の削減に努めるとともに、次期総合振興計画の策定に合わせて事業の優先度や効果を見極め、事業費の抑制を図りながら慎重な財政運営に努められたい。

(1) 翌年度繰越額について

令和4年度から令和5年度への繰越額は明許繰越、事故繰越を合わせ1,594百万円余で、令和3年度から令和4年度への繰越額より393百万円余の増額となっている。

2カ年連続での10億円を超える繰越額となり、特に令和3年度から令和4年度に繰越した乳用牛生産振興事業が全額事故繰越となっており、その上、令和4年度事業473百万円余も次年度への繰越となっている。

令和3年の豪雨災害による災害復旧費においても、事故繰越額123百万円余、明許繰越額が464百万円余計上されている。

2カ年連続での大規模な繰越は他の事業にも大きな影響を及ぼしかねないので、徹底した進捗管理のもと年度内完成を図ること。

(2) 公共施設について

公共施設の老朽化が進んでおり、維持管理費が年々増加傾向にある。公共施設等総合管理計画に基づきこれらの施設の集約化、廃止、譲渡が検討されているが、早期に具体的な進行を図り、維持管理費の低減につなげられたい。

【病院事業会計】

令和4年度の医業収益は入院収益、外来収益ともに昨年に比し増収となったが、その他医業収益、医業外収益においてコロナ関連交付金等の終了により減収となった。

一方、医業費用は医師、看護師の体制確保を図ったことから人件費が大幅に増加したため、令和4年度の収益的収支は純損失3百万円余となり、3年ぶりの赤字決算となった。

医業収益は前年度から増加したものの、病床利用率は目標としている70%に達しておらず、今後は策定された病院経営強化プランに基づき、病床利用率の改善と医業費用の削減に取り組み、健全な病院経営に努められたい。

【簡易水道事業会計】

令和4年度は純損失3千万円余を計上し赤字決算となった。

人口減少にともない給水収益が減少するなか、佐見地区営農飲雑用水施設の減価償却費の増加等が赤字化の要因である。

料金水準の妥当性を示す料金回収率は60.74%で、前年度比0.49ポイント上昇したが必要経費を給水収入で賄える状況にはない。

今後も厳しい経営状況が続くと見込まれるだけに、徹底した経費削減に

取り組み料金回収率の改善に努められたい。

一方で管路の老朽化が進行しており、耐用年数である40年を経過した管路が全体の60%を超えている。長期間・広範囲にわたる断水といった重大事故に至らぬよう「飯南町簡易水道事業経営戦略（平成29年度～平成38年度）」を早急に見直し、具体的措置を講ぜられたい。

#### 【下水道事業会計】

令和4年度は純損失24百万円余の赤字決算となった。

公共下水道、合併浄化槽、農業集落排水事業とも経費回収率は前年度より上昇しているが、必要経費を使用料で賄える状況にはない。

徹底した経費の削減に努め、経費回収率の向上に努められたい。

農業集落排水は施設の老朽化が進み、施設の更新が計画されているが多額の企業債残高を抱えているので、起債を抑える財源の確保に努められたい。

#### 【基金の運用状況】

飯南町の令和4年度末の基金残高は、財政調整基金、減債基金、特定目的基金、その他基金を合わせ3,781百万円余であり、昨年度から160百万円の減額となった。

令和4年度は、減債基金、特定目的基金において事業に充当するため257百万円余の取り崩しを行っているが、一方で97百万円余を積み立てている。

この基金は一括運用とし、3,574百万円余を債券、定期預金で運用し、令和4年度も19百万円余の運用益を得ている。

飯南町中期財政計画によると、今後、基金の取り崩しは避けがたく現在の20億円に上る債券運用が妥当か、また継続可能なのか、金融状況等を考慮し慎重に判断されたい。

以上、意見を付して審査の結果を報告する。